

横須賀市は、神奈川県南東、三浦半島の中央部に位置しており、東は東京湾、西は相模湾にそれぞれ面しています。

北は横浜市、逗子市、葉山町と接し、南は三浦市に接しています。南北は15.8km、東西は15.3kmあり、面積は100.68km²で約42万の人が暮らしています。

本市は三浦半島の約6割を占め、東西が海に囲まれており温暖な気候となっております。また山地や丘陵からなる起伏の多い地形で、坂道やトンネルの多いことが本市景観の特色です。

市の中央部には、三浦半島の最高峰（標高242メートル）である大楠山や武山（標高200メートル）がありハイキングコースが整備され、レクリエーションの場を提供する緑として活用されています。

三浦半島で唯一の梅林である田浦梅の里は、約6,000平方メートルの敷地の中に約2,700本の梅が咲きほこる梅の名所で、「かながわ花の名所100選」にも選ばれています。また東京湾唯一の自然島である猿島をはじめとして観音崎、荒崎といった自然の海岸では、背後の緑と調和した景観が保たれています。

本市の農水産業は恵まれた立地・自然条件の中、都市近郊農業・水産業として発展してきました。



田浦梅の里

昨今の食に対する安心・安全志向の高まりや、農水産業の活性化を図るために、本市では地産地消（地元で生産されたものを地元で消費すること）を推進し、今年（平成21年）「横須賀市地産地消推進アクションプラン」を定めました。

このプランの中で、地場産農水産物の市内流通量を上げることや、農水産業の新名産品を創出することなどを目標に掲げています。

幕末に造船所（製鉄所）が横須賀に建設されたことが、横須賀が近代化されるきっかけとなりました。明治政府に変わり、横須賀に鎮守府（海軍の部隊を監督する機関）が置かれ、その後本市は軍港都市として栄えてきました。戦後は旧軍施設の平和産業への転換を図り、平和産業港湾都市として発展をとげています。

現在、本市は「国際海の手文化都市」を目標として、豊かな自然をはじめとした地域資源を活かし、人々がさまざまな交流を広げ、国際性豊かな感性あふれる文化都市を目指しています。

最後に、横須賀ならではの名物について紹介します。明治時代の日本海軍が、食事のメニューの中に栄養価の高いカレーシチューを取り入れたことが日本にカレーが広まるきっかけとなりましたが、海軍と縁の深い横須賀では、当時のレシピを参考にして「よこすか海軍カレー」を誕生させました。

また、米海軍から提供されたレシピに基づいて作られたハンバーガーである「ヨコスカネイビーバーガー」が今年生まれました。皆さまも、横須賀へお立ち寄りの際はぜひご賞味ください。



大楠山のコスモス

（横須賀市役所 農林水産課）

